百一年目の日蝕

来る八月十九日の日蝕ハ今を去る百一年前天明六年五月朔日以来の皆既にて実に珍らしきものなり米国より「ハアドヰー」「ビートッド」氏来朝あり又理科大学教授寺尾氏其他の諸氏等日光新潟白河等の地方へ実測のために出張さるゝよし又今回の日蝕ハ頗る奇異にして蒼天五色に変じ暗黒色となり全く蝕するに及べバ人面ハ皆青白色を帯び草花ハ萎み飛鳥ハ地に降り獣類ハ地に伏し実に一代に一度の観物と云ふべし又東京ハ九分九リン余蝕し午後二時三十六分七秒右ノ欠初メ同三時四十八分一秒甚しく四時五十二分五秒上左の間に復圓する之

年情画